

第2次府中市学校教育プラン（案）に対する
パブリック・コメント手続の実施結果について

- 1 意見の提出期間 平成25年11月11日から
平成25年12月10日まで

2 意見の件数等

意見件数	提出者数	意見の提出方法別人数				
		電子メール	ファックス	郵送	意見投函箱	窓口
23	1	1	0	0	0	0

3 意見の概要及び意見に対する市の考え方

No.	頁数	項目	意見の概要	回答
1	1	目指す子供像	『～また、豊かな発想や感性をもち、美しいものや自然に感動する心、正義や公正さを重んじる心、自らを律し周囲の人々と協調し他人を思いやる心、自他の生命や人権を尊重する心なども大切です。～』と記載されていますが、「年長者(家庭→両親、祖父母。学校→先生。地域→地域活動における諸リーダー)を敬う。」という文言を加えるべきと思いますがどうでしょうか？	本計画では、年長者に限らず、全ての人を敬う心をもった子供を育てることを目指しており、年長者に限定した表現はしていませんが、同主旨を含んでいるものと考えております。
2	6	1 確かな学力を育てる(知)	P. 6～7で、小学校5年生と中学校2年生の授業の理解度、授業の満足度が示されています。全般的に見て、小学校5年生は授業の理解度、授業の満足度とも23年度と比較し24年度は低下傾向。 一方中学校2年生は授業の理解度、授業の満足度とも23年度と比較し24年度は大幅な上昇傾向となっています。 この違いについてどう分析されていますか？	授業の理解度、満足度ともに概ね安定しており、特別に大きく変化しているとは捉えておりません。しかし、低下傾向にあるものについては、原因を分析し、対応に当たってまいります。

3	8	1 確かな学力を育てる(知)	例えば文部科学省が平成25年4月24日(水曜日)に国語、算数・数学の2教科で、小学校第6学年及び中学校第3学年の全児童生徒を対象に実施した平成25年度全国学力・学習状況調査の結果等はどのように活かしている、あるいは活かそうとされているのか教えてください。	平成25年度全国学力・学習状況調査の結果に加えて、市が独自で行っている学習状況調査、東京都で行っている平成25年度児童・生徒の学力向上を図るための調査をそれぞれ分析しています。 その分析で分かった府中市全体的な傾向に加え、学校独自の課題を、結果を基に指導主事が学校を訪問し、授業改善推進プランと合わせて、授業改善の手立てについて助言しています。学校では特に「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を自校で採点し、その結果を基に課題を把握し、その課題を解決するための「授業改善推進プラン」を作成し、取り組んでいます。
4	8	1 確かな学力を育てる(知)	『・指導室訪問や校内研修等において、指導主事による指導・助言を行い、学校の学力向上に対する取組を支援する。』と記載されていますが、「指導主事」を選考される際の資格要件を教えてください。	「44歳未満で、現に主幹教諭の職にある者、現に指導教諭の職にある者又は主任教諭歴が2年以上ある者」となっております。

5	9	1 確かな学力を育てる (知)	『・学習指導要領の重点でもある思考力・判断力・表現力等の課題解決力の育成を図るため、教育課程の編成において言語活動の充実を明確に位置付ける。』と記載されています。自分自身も社会人として色々な経験をしていく過程で、コミュニケーション能力の大切さ(いくらよい考え・発想をもっている、それを上手くプレゼンテーション(表現)する力がないと周囲の人間を自分の思う方向にリードできない。)をひしひしと感じています。 そこで上記記載中の「言語活動の充実」について具体的にどのように充実される想定なのか、教えてください。	各教科をはじめとして、記録やレポートの作成、説明、論述等の活動を発達の段階に応じて推進するとともに、総合的な学習の時間における教科横断的な探究活動とも関連付け、言語活動の充実を図ってまいります。
6	9	1 確かな学力を育てる (知)	P. 8に『問題の解決や探究活動の過程において、問題を分析し、まとめ、表現する力や相手の考えを理解し意見を交わすという、他者とのコミュニケーションによって高められる思考力、判断力、表現力を育成するためには言語能力の果たす役割が大きい。』と記載されています。上記能力を向上させるためには、これまでの先生→生徒という一方通行的授業だけではなく、生徒→先生という流れも意識した双方向的授業も検討する価値があると思いますがどうお考えでしょうか？	児童・生徒は授業において、教師を含めた他者との対話を通して考えを明確にし、自己を表現し、他者を理解するなど互いの存在について理解を深めます。思考力・判断力・表現力等の育成を効果的に図るためにも、教授を中心とした授業から児童・生徒と教師の対話及び、児童・生徒同士の学び合いを通じた共につくる授業へと改善することが重要であると捉えております。

7	1 5	3 健やかな体をつくる (体)	『・体力テストの結果を分析し、学校別体力向上指針を提示し、経年変化や各校の実態を捉えた体力向上の取組を推進する。・クラブ活動・部活動において、学校ボランティアを含む外部指導員を活用し活性化を図る。・体を動かす習慣づくりや規則正しい生活習慣の好ましい影響について、学校便りなどにより啓発し、家庭・地域と連携した総合的な体力向上の取組を推進する。』と記載されています。 一方、文化スポーツ部生涯学習スポーツ課が先日公表された【府中市スポーツ推進計画(案)】では『スポーツは、子どもの心身の健全な発達に大きな役割を果たします。しかしながら、子どもの体力水準のピークとされる昭和60年頃と比較すると、依然低い水準にあるとともに、運動を「する子」と「しない子」の二極化という現状もあります。このような状況のなか、まずはスポーツ参加のきっかけとなるスポーツイベントの開催を通じて、子どもたちのスポーツへの興味と関心を高めることを目指します。～』と記載されています。 子どもの体力向上について、府中市の中でどの部署が主体となって進めていく方針なのかを教えてください。	学校教育においては、心身ともに健やかな児童・生徒を育むことを念頭に、運動することの楽しさや重要性を伝え、児童・生徒の健全な成長を支える基礎体力の向上や基本的な運動習慣を身につけることを目指すものです。 生涯学習スポーツ課においては、児童・生徒を含む市民全体のスポーツ環境を整え、多くの市民がスポーツに触れることができる機会を提供するものと考えております。 教育委員会、生涯学習スポーツ課は、それぞれの役割において事業を展開し、連携を図りながら、児童・生徒の体力向上を目指すものと考えております。
---	-----	-----------------------	---	--

8	17	4 教育環境を充実する	『また、若手教員育成研修においては、3年間で教員としての基礎的・基本的な力量を育成することを目標としているが、個人の資質・能力には長所・短所があることから、教育アドバイザーによる定期的な授業観察等を通して、個々の課題に応じたきめ細かい育成を図ることが必要である。』と記載されています。 No. 4でご質問した「指導主事」と上記記載にある「教育アドバイザー」の役割の違いを教えてください。	若手教員育成研修につきましては、指導主事が、年間12回実施されます研修の内容等をコーディネートし、その研修の講師となり指導・助言を行っています。 教育アドバイザーは、退職校長等が長年の経験に基づき、1年次の教員の授業観察を行い、授業力・指導力の向上に向けた指導・助言を行っています。
9	17	4 教育環境を充実する	『いじめを無くし、児童・生徒が安心して学ぶことができる環境をつくるためには、一層教員がいじめへの対応力・指導力を身に付けていくことが必要になるとともに、児童・生徒の規範意識を高め、自他の生命を尊重する心の醸成を図ることが重要となる。』と記載されていますが、いじめ自体は昔からあったと思います。ただし、最近のいじめはテレビ等で起きていると「非常に陰湿化」していると感じます。 よってまずはこの陰湿さを取り除くことを最優先で取り組むべきではないかと考えますがどうでしょうか？	陰湿ないじめの背景にあるストレスを低減させるためにカウンセリングや個人面談等の指導の充実を図ります。
10	18	4 教育環境を充実する	「府中市における問題行動発生件数等」を見ると、不登校の人数(特に中学校)が非常に多いと感じます。教育委員会側ではこの人数をどう分析され、いかなる対策を講じようとしているか教えてください。	いわゆる中一ギャップ(学力面、教科担任制、部活動、人間関係等による不応)と言われるものが要因として考えられます。また、小学校段階から徐々に不登校の傾向が出現していることも分かっており、児童・生徒理解において小・中学校間で情報交換を適宜行い、緊密な情報連携と行動連携をとるよう指導します。

1 1	1 9	4 教育環境を充実する	『O J Tを活用した人材育成について、受ける側のニーズを捉えた研修内容の実施や組織体制の整備等、O J Tの機能が効果的に活用できる環境づくりをより一層推進するとともに、職層に応じて学校経営に積極的に参画する意識を醸成していく。』と記載されています。 一方、「平成25年度府中市立小中学校教員数及び現任校勤務年数」中の年齢別教員人数(中学校)の年代分布を見ると、男女ともに50代の人数が突出しています。 こういういびつな分布状況下にて、上記記載の『職層に応じて学校経営に積極的に参画する意識を醸成』させる考え方はよいとしても、具体的な方法については工夫(将来、学校経営の中心となる20代、30代の人数面から見た比率の低さを踏まえ)が必要と考えますが、どうお考えでしょうか？	ご指摘のとおりと考えます。そのための工夫が校内におけるO J Tの活用です。 また、若手教員が経営参画できる力を身に付けるために、マネジメント講座等、多様な研修の場を設定しています。
1 2	1 9	4 教育環境を充実する	「平成25年度府中市立小中学校教員数及び現任校勤務年数」を見ると、小学校(主に男女の比率)、中学校(N o . 1 1でも記載した通り、主に年代の比率)ともに偏りがありますが、今後の学校経営の方針も踏まえた上でどう分析されているか？また改善が必要と考えられているとした場合は、その改善方針を教えてください。	小学校における教員の男女比、中学校における教員の年代別構成比率につきましては、バランスに欠くものと捉えており、東京都全体が同様の傾向を示しています。 教員の採用及び配置は東京都教育委員会が行うもので、本市教育委員会としましてはいかんともしがたいものですが、人事異動の内申を通して可能な限り改善をしていく努力をします。 また、本市教育委員会としては、年齢や職層に応じた研修を充実させるとともに、育成方法の開発に努めているところです。

1 3	1 9	4 教育環境を充実する	「平成 2 5 年度府中市立小中学校教員数及び現任校勤務年数」の内の現任校勤務年数を見ると、小中学校ともに、大まかには 1 年が一番多く、1 0 年以上まで一貫して右下がりになっています。自分のイメージとしては 5, 6 年の中堅が一番多くなる山形のような分布が運営上一番よいのではと感じますが、どうお考えでしょうか？	教員が多くの職場を経験することで、その経験をより良い学校運営に活かすことができるものと考えております。 なお、東京都教育委員会の定めた「東京都公立学校教員の定期異動実施要綱」の「現任校において引き続き 3 年以上勤務する者を異動の対象と」し、「現任校において引き続き勤務する年数が 6 年に達した者は、異動するものとする。」との規定に基づき教員異動が行われているため、このような現状となります。
1 4	2 0	4 教育環境を充実する	『現在、3 年に一度のサイクルで、全校に年 2 回の評価委員訪問による第三者評価を実施し、1 サイクルが終了したところである。これまでに把握できた各校の評価結果を学校経営や授業の改善等に活かし、PDCA サイクルによる組織マネジメントの機能の向上を図る。』と記載されていますが、第三者評価の結果について、一般市民にも公表するお考えはありますでしょうか？	第三者評価の公表については、学校の努力義務としており、学校長の判断で公表の是非を規定しています。
1 5	2 1	4 教育環境を充実する	『・第三者評価の実施による、学校経営の課題と成果や改善点等をまとめた学校経営診断書や自己評価等を活用し、客観的な達成点と改善点を明確にし、学校経営の改善に活かす。<u>その情報</u>を公開、提供することで、広く家庭、地域から理解や協力を得ることができる環境づくりを行う。』と記載されています。下線を引いた「その情報」が意図している情報の範囲を教えてください。	学校経営診断書や、それにとりまなう業務改善の成果等に関する情報を想定しておりますが、公開する情報の明確な範囲は、学校が判断することとなります。

1 6	2 1	4 教育環境を充実する	『・教員が調査・研究を行っている <u>府中市立小中学校教育研究会</u> について、その自主的な活動を支援することで、教員の資質や能力の向上及び授業改善の推進を図る。』と記載されています。下線を引いた「府中市立小中学校教育研究会」について、構成員やこれまで具体的にどのような研究を行いどのような成果をあげているか等、組織のより詳細な内容を教えてください。	府中市立小中学校教育研究会は府中市立小中学校の教職員で構成されており、研究部に分かれて各教科等の研究を行っています。 具体例として平成25年に行われた研究発表会では、「小学校算数との接続を意識した数学授業の在り方」として、小中学校における算数・数学の連携の在り方について発表を行う等、学校の実状に則した研究を行い、その成果を市の学校教育の振興に活かしております。
1 7	2 3	5 家庭との連携を深める	家庭学習の状況ということで、学校以外での学習状況が記載されていますが、学習塾での勉強についてはどのような見方をされているか教えてください。	学習塾に通う目的は各家庭で多様であると考えております。学校における学力保障に関する具体的な支援の方法について、今後研究してまいりたいと考えております。
1 8	2 8	5 家庭との連携を深める	『・市立幼稚園において、未就学園児を含む近隣の保護者と子供が気軽に遊び、交流することができるよう、子育ての場や機会を提供するとともに、子育て相談に応じるなど、地域の幼児教育の拠点として、その施設や機能を地域に開放し、地域の子育てを支援する。』と記載されていますが、小中学校の保護者への具体的支援についてはどうお考えか教えてください。	小中学校の保護者については、各小中学校にて問題解決への支援をしております。 また、教育センターにおいても、電話相談、来室相談等を行っております。

19	29	6 地域の教育力を活用する	『全小・中学校で実施している <u>セーフティ教室</u> や <u>道徳授業地区公開講座</u> では、地域の教育力を活用して、講義や体験型にするなどの工夫が見られる。しかし、それぞれの公開講座等で意見交換を設定していても、参加者が少なかったり、意見が出なかったりといった課題も指摘されている。地域住民が公開講座の価値を見出す内容や時間の工夫が必要である。』と記載されています。下線を引いた「セーフティ教室」、「道徳授業地区公開講座」の具体的授業内容を教えてください。また「それぞれの公開講座等で意見交換を設定していても、参加者が少なかったり、意見が出なかったりといった課題も指摘されている。」への対策もあわせて教えてください。	セーフティ教室では、犯罪に巻き込まれないための身の守り方や薬物の有害性・依存性、乱用の危険性、喫煙や万引き等、悪い誘いの断り方等について、警視庁職員等の外部人材を講師として招き、非行防止の指導や犯罪の被害にあわないための指導を行っています。 また、道徳授業地区公開講座では、全校で道徳の授業を行い、それを保護者や地域の方に見ていただくことにより、家庭・学校・地域社会が一体となった道徳教育を推進しています。 課題に対しては、参加者の関心の高いテーマを設定する、協議会の進め方や意見交換の時間設定を工夫する等の対応をしているところです。
20	30	6 地域の教育力を活用する	『学校の教育活動に地域の人材を活用した取組として、多くの学校で社会科や総合的な学習の時間があげられている。地域の文化や伝統を学ぶ上で、古くから地域で生活していたことによる知識や経験は児童・生徒の学びにとって有用なものであり、それは、地域人材を活用した授業等において、 <u>具体的な効果</u> としてあらわれている。』と記載されています。下線を引いた「具体的な効果」についてより詳しく教えてください。	例えば地域の農家の方に協力いただき、児童が自分の手で種まきから収穫まで体験することを通して、学びが生活と密着したものであることを体得するなど、体験を通して感性が知識と結びつき、より深い理解や学ぶ意欲につながっています。 ご質問を受け、本文をより具体的な表現に改めました。

2 1	—	その他	第2次府中市学校教育プラン(案)を拝見すると、大筋としては、学校だけではなく、家庭や地域も一体になって子どもたちを育てていこうというものと認識しました。しかし、家庭については、平成25年版厚生労働白書/第2部現下の政策課題への対応/第1章 子どもを産み育てやすい環境づくり/第1節少子社会の現状/P. 189図表1-1-3共働き等世帯数の推移をみると、1991年をさかいに雇用者の共働き世帯数が男性雇用者と無業の妻からなる世帯数を上回り、その後年々両者の乖離幅が増大していること。また地域についても第6次府中市総合計画/第2章 まちづくりの主な課題/P. 16で「地域コミュニティに目を向けると、住民の連帯感の希薄化や担い手不足などにより、町内会など地縁組織の衰退が見られます。」という現状分析がなされています。 このような現状の中で、家庭や地域をどのようにまきこんでいく想定か教えてください。	家庭との連携につきましては、行事等を休日に実施する等、共働き家庭でも教育に参加しやすい環境づくりをしてまいります。 地域との連携につきましては、外部人材として地域の方を授業に招く、共同で防災訓練を行う、児童・生徒が地域のお祭りに参加する等、より学校と地域が関わり合いをもてるよう積極的に働きかけを行います。 また、学校、家庭、地域がより連携することができるよう、全ての学校において府中版コミュニティ・スクールを構築します。
2 2	—	その他	佐賀県武雄市では「家庭での予習を前提とした反転授業」という試みが行われているとテレビで見ました。今までの固定概念にとらわれないという点では、取り入れるかどうかは別として、上記のような他の自治体の試みにも常にアンテナを張っておくべきと考えますが、ご意見を伺わせてください。	ご指摘のとおりと考えます。他の自治体の試みに対して情報収集に努めたいと考えております。

23	—	その他	No. 22と同じような内容になりますが、文部科学省のホームページにも記載されていますが、E S D (持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development))についても、例えば、No. 16で質問した「府中市立小中学校教育研究会」といった場で実践に向けた研究等されてみては？と思いますが、どのようにお考えでしょうか？	府中市立小中学校教育研究会での研究内容は協議により決定されます。今後E S Dの研究についても検討がされていくことを考えております。
----	---	-----	--	---